

所在地：京都府宮津市 選定年月日：平成26年3月18日、平成27年1月26日追加・市境変更に伴う一部解除  
面積：1,255.1 ha 選定基準：二(一)(四)(七)(八)

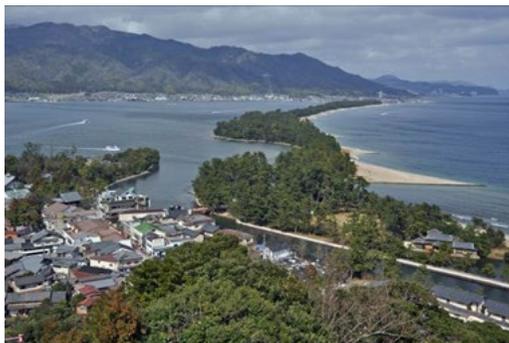
## (1) 概要

宮津天橋立の文化的景観は、宮津湾と阿蘇海(あそかい)を隔てる天橋立とその南北に展開する文化的景観です。

このうち、宮津湾西岸から阿蘇海北岸に位置する府中(ふちゅう)地区には、丹後国分寺跡や条里制に遡る農地などが所在しており、古代丹後国府(たんどこくふ)の所在地に比定されています。中世から近世にかけて、当地が成相寺(なりあいじ)・籠(この)の神社等による信仰の中心として機能したことは、16世紀初頭に雪舟が描いた『天橋立図』等によって示されています。近代になるとケーブルカー等が整備され、土産物・旅館街等の町並みが形成されるなど、観光拠点として発達しました。他方で、国分(くにぶん)・小松・中野等の農業集落は旧道沿いに単列の街村形態を成しており、集落内の石積み水路には洗い物をするためのアライバが設えられています。

また、阿蘇海ではキンタルイワシと呼ばれたマイワシ漁が盛んであり、溝尻(みぞじり)には海に面して舟屋が連続する特徴をもつ漁村が展開しています。

文珠(もんじゅ)地区は智恩寺を核とした天橋立信仰の中心地で、近世の四軒茶屋に遡る観光の中心地として機能してきました。智恩寺参詣の中心地及び天橋立参詣の拠点として展開してきた地域であり、信仰及び観光によって発展を遂げてきた土地利用の歴史的な重層性を示す地区として、独特の文化的景観が展開しています。



宮津天橋立の文化的景観 遠景



国分集落のアライバ

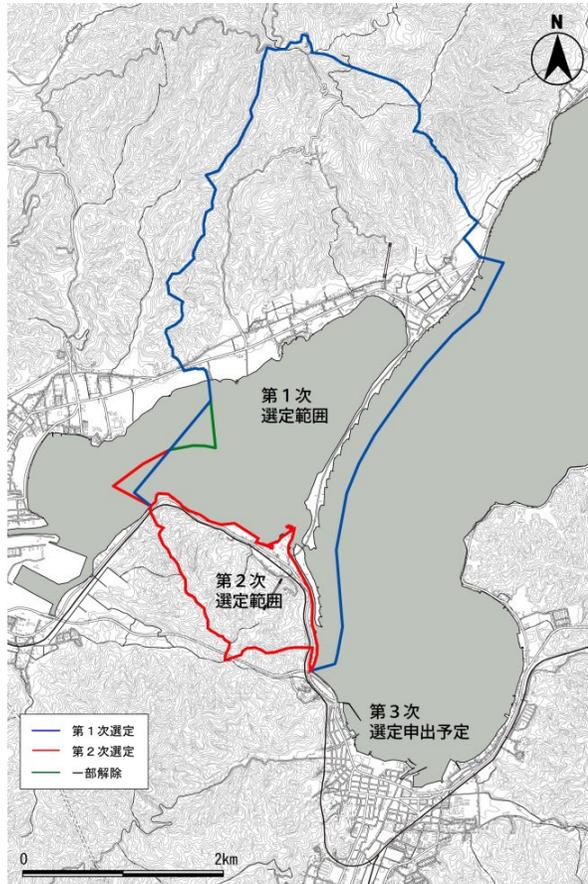


智恩寺門前のにぎわい



溝尻集落の舟屋群

## （2）選定範囲



- 重要な構成要素：124件
- 国指定等文化財：天橋立（特別名勝）、智恩寺多宝塔（重要文化財）、丹後国分寺跡（史跡）、成相寺旧境内（史跡）ほか

## （3）選定による効果

一の宮棧橋（駅舎）、文珠公会堂、傘松ケーブル（府中駅）、神風楼、慈光寺、真名井神社などの整備事業を実施し、景観まちづくりの推進に寄与しました。また、都市計画部局が所管する界限景観まちづくり協定制度に基づいて、文珠町づくり委員会（平成26年8月）、大垣自治会界限景観特別委員会（平成27年8月）、溝尻まちづくり協議会（平成28年6月）が地域協定を締結し、宮津市の補助金を得て多くの修景事業を実施しています。

その他、選定を記念したフォーラムの開催を皮切りに、宮津まち景観形成協議会による滋賀県高島市の針江地区（重要文化的景観）の視察や、建築民俗学会による見学会、地域団体によるフォーラム、まち歩きなどが開催され、地域資源の理解と愛着が深まるとともに、各種マスコミによる取材を通じてシティープロモーションにもつながりました。



一の宮棧橋



文珠公会堂

## （4）保存活用計画などの基礎情報

- 宮津市天橋立の文化的景観 調査報告書（平成26年3月、宮津市）
- 宮津市天橋立の文化的景観 調査報告書〔宮津地区・補遺編〕（令和3年3月、宮津市）
- 宮津市天橋立の文化的景観 保存計画書Ⅰ（平成28年3月、宮津市）



(5) 活用事例

事例26-02 ②

国宝の雪舟「天橋立図」をまちづくりに活かす、「府中をよくする地域会議」

●住民や団体等による取り組み

平成13年、国道の拡幅工事を契機として、地元の若手有志たちが、室町時代の丹後府中を描いた雪舟「天橋立図」をモチーフとしたまちづくりを発案。その理念は、平成18年に結成された「府中をよくする地域会議」に受け継がれました。

地域会議は、府中地区連合自治会や実業会、観光会、PTA、老人会、婦人会などで構成され、地域の課題解決や元気づくりに取り組んでいます。

雪舟「天橋立図」に基づく小学校の擁壁の修景や、古道整備、案内板・パンフレットの作成などに取り組み、現在、雪舟「天橋立図」や重要文化的景観を基盤とした地域活性化や、移住定住の促進を目指して、京都産業大学、京都府立大学などと事業を展開しています。

関係者の声

府中の家々には、雪舟「天橋立図」のレプリカが！地域の歴史文化を学び景観について考えたいです。



フォーラム



まち歩き



パンフレット

団体等情報：府中をよくする地域会議

<https://www.amanohashidate.info/time-travel/>

（雪舟「天橋立図」を旅する）

① 地域内での  
魅力の共有

② 活性化の  
目標の共有

③ 広域外への  
広報

④ 魅力を引き  
出す開発

⑤ 財源の  
確保と運用

⑥ 人づくり